

科目名	国語総合	使用教材	教科書 「新精選国語総合」(明治書院) 副教材 「新訂 国語便覧」(第一学習社) 「漢字検定ステージ」(日本漢字能力検定協会) 「現代文 アチーブ1」(桐原書店)(スーパー進学)
単位数	1年次：2単位必修 スーパー(前・後期各2時間) ベーシック(前期3時間、後期1時間)	評価方法	小テスト、定期考査 授業への取り組みの様子 提出物、感想文・レポート 検定

学習到達目標

- ◆基本的な学習の躰(挨拶、姿勢、発声、話し方、視線)を定着する。
- ◆現代文に重点を置き近代以降の様々な文章に触れる中で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力を伸ばし、総合的な言語能力を養い、日常用いている言葉に意識を向け、適切な表現を身につける。
- ◆漢字を中心とする日本語の学習に重点を置き基礎学力を高める中で、進路を見通した学習を計画的に進める能力を養う。

★授業について

「国語総合」では、現代文に重点を置いて学習していきます。様々なジャンルの文章に触れる中で、辞書を活用し、たくさんの語彙を身につけ、「話す」「聞く」「書く」「読む」の広い領域で生かしていくことができる力を身につけていきましょう。語彙を正しく理解することは相手に適切な言葉で想いを表現することにもつながります。どのような場面でどのような言葉を用いたら相手にきちんと想いを届けられるのか…についてじっくり考えていきましょう。各学校行事の前後には、「手紙」や「感想・意見文」を書く時間も設けていきます。一つ一つの取り組みを大切にしていくことで、自分の内面も少しずつ磨いていくことができると思います。

また、「漢字力向上」に向け、漢字検定 2 週間前から対策強化週間とし、基礎力を補強していきます。

目指せ漢字検定 3 級以上取得!

★自主学習について

◎予習 次の時間に学習する範囲をしっかりと読んでおきましょう。分りにくい語句については辞書を活用して意味をまとめておきましょう。授業を充実させる自分なりの工夫を考えてみましょう。

◎復習 授業中にまとめたノートや挑戦した問題の見直しをしっかりと行いましょう。また、小テスト実施後は、間違ったところをそのままにせず、再度直しを行いましょう。

★評価について

- 評価の観点 ①各単元の基本的知識の定着を授業・考査を通じて評価します。(知識・理解)
と対象 ②授業に対する意欲、姿勢を観ます。(関心・意欲・態度)
③ノート、小テスト、プリントなどの提出状況とその内容を観ます。(思考・判断)
④感想文やレポートの内容、発表時の態度などを評価します。(書く能力)(話す・聞く能力)
⑤漢字検定における学習の成果を評価します。(知識・理解)(関心・意欲・態度)

★進路 自分の進路について考えてみたことがありますか? 1年次は目標達成のための基礎力を蓄える大切な時です。まずは、今の自分の勉強への姿勢を見つめ、短期の計画を立てることから始めてみましょう。目標が見つからない…という人もいるかもしれませんが、一日一日を丁寧に過ごしていく中で自分自身の適正や進みたい方向が少しずつ見えてくると思います。授業の中でも自己表現することを恐れず、想いを言葉にしてみましょう。

また、「漢字力向上」をテーマに、毎週校内漢字テストを実施します。毎回真剣に取り組むことで、生活の様々な場面でも集中力が生きてきますよ。満点を目指して努力を重ねていきましょう。

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4	2	オリエンテーション	・「国語総合」での学習のねらいや授業での決まりについて理解する。	◆学習の終始と決まりの定着 ◆聞き方・話し方の確認
	3 ~	評論「言葉の力」	・評論文の形式をつかむ。 ・「言葉」がどのような点で「最高の贈り物」になるのかを読み取る。	*日常用いている「言葉」に意識を向け、「言葉」と「心」の関係について考える。 (関) 総合「自分を見つめる」
5	1 ~	表現「手紙を書く」	・実用的な手紙の形式をつかむ。 ・相手のことを考え、適切な表現で手紙を書く。	*お世話になっている人へ手紙を書き、相手に気持ちを伝えることの意味について考える。(関) 品格教育揭示「言葉」
5 6	3 ~ 2	小説「羅生門」	・評論文の形式をつかむ。 ・様々な状況の中で揺れ動く人間の心理を読み取る。	●5W1Hの読み取り方をつかむ。 ●主人公の心理変化を整理し、最後の行動の意味を考えまとめる。
6	3 ~ 4	詩歌「髪五尺」	・作者についての理解を深める。 ・短歌の修辞を理解し、込められた想いを探る。	●便覧を活用し作者についてまとめる。 ●定型律の特質を理解し、作者の感動の中心を押さえて作品を味わう。
6 7	4 ~ 1	漢字検定対策強化週間	・自分の弱点分野を分析し、計画的に学習を進める力を養う。	◆学習進度表や得点表を活用する。
			・目標を設定し計画的な学習を行う。	◆考查に対する姿勢や勉強の仕方を考える。
前期考查				
8 9	4 ~ 1 2	詩歌を作ろう 前期学習のまとめ	・自分の想いを短歌にし、歌作の楽しさを味わう。	●「井原市文学賞」出品作品を作る。 ◆季節を感じ、言葉への感性を研ぐ。 *自分の想いを表現する言葉を探す中で、内省する態度を養う。
10	3・4	漢字検定対策強化週間	・自分の弱点分野を分析し、計画的に学習を進める力を養う。	◆学習進度表や得点表を活用する。
11	1 ~ 4	評論「「仕切り」の文化論」	・比較文化論の形式をつかむ。 ・「身体」と「文化」とのかかわりから、人間の在り方を探る。	●二項対立の主張から、筆者の文化の捉え方を考える。 ●「仕切り」の意味を、個人・家族・社会の視点で考え、まとめる。
12	1 ~ 3	小説「青が消える」	・作者独特の表現をとらえる。 ・登場人物の心理を探り、それぞれの考えの相違をつかむ。	●通読する中で、作品を通して作者が伝えようとしているテーマをまとめる。
1	2 ~ 4	表現「本を紹介する」	・他者に興味を持たせるための紹介文の構成を工夫する。	◆本を紹介する意義について理解し、今後の読書活動につなげる。 ◆話す態度・聞く態度を再確認する。
2	1 ~ 4	詩歌「白牡丹」	・作者についての理解を深める。 ・俳句の修辞を理解し、込められた想いを探る。	●便覧を活用し作者についてまとめる。 ●定型律の特質を理解し、作者の感動の中心を押さえて作品を味わう。
3	1	後期学習のまとめ	・目標を設定し計画的な学習を行う。	◆考查に対する姿勢や勉強の仕方、学年の締めくくり方を考える。
後期考查				

科目名	古 典	使用教材	教科書 「古典1」(大修館書店) 副教材 「必携 古典文法」
単位数	1年次：4単位必修 ベーシック総合進学コース (後期)	評価方法	小テスト、定期考査 授業への取り組みの様子 提出物、感想文・レポート

学習到達目標

- ◆基本的な学習の躰(挨拶、姿勢、発声、話し方、視線)を定着する。
- ◆古典としての古文と漢文に触れる中で、伝統と文化に対する理解を深め、長い歴史のつながりの中における「現代」に目を向ける。
- ◆漢文学習では、中国の思想を学ぶ中で、本校設定科目である『論語』の理解を補強し、自らの生き方・在り方について深く考察する態度を養う。

★授業について

後期からの授業で古文、漢文を週2時間ずつ学習します。「古典」と聞くと、現代文とは文法も異なり、外国語を読んでいるように感じて苦手意識を持つ人がいるかもしれませんが、私たちの祖先が紡いできた文化に触れ、生きるヒントを見つけることができるのが「古典」の魅力です。文法学習に偏らず、古文漢文のリズムをつかむための音読や、現代とは異なる生活習慣を視覚からも理解できるよう「国語便覧」を活用した学習も行っていきますので、積極的に授業に取り組んでください。文法については、中学校での既習内容も踏まえて一つ一つまとめていきます。ノートを取り方、文法書の使い方などを工夫して効率よく整理していきましょう。また、古典作品を通して感じたこと・考えたことを言葉にする機会も設けていきますので、積極的に自己表現をして、お互いの意見に耳を傾けてほしいと思います。

★自主学習について

- ◎予習 次の時間に学習する範囲の本文写し、音読をしておきましょう。分からない単語については辞書を引いてまとめておきましょう。授業を充実させる自分なりの工夫を考えてみましょう。
- ◎復習 授業中にまとめたノートや挑戦した問題の見直しをしっかりと行いましょう。また、小テスト実施後は、間違ったところをそのままにせず、再度解き直しを行いましょう。

★評価について

- 評価の観点 ①各単元の基本的知識の定着を授業・考査を通じて評価します。(知識・理解)
と対象 ②授業に対する意欲、姿勢を観ます。(関心・意欲・態度)
③ノート、小テスト、プリントなどの提出状況とその内容を観ます。(思考・判断)
④感想文やレポートの内容、発表時の態度などを評価します。(書く能力)(話す・聞く能力)

★進路 (大学入試センター試験について)

大学入試センター試験では、国語200点満点中、「古典」は100点分を占めています。単語や文法の理解はもちろんですが、文脈に応じた読解ができているかどうかが見られます。1年次はその基盤をつくる大切な時期ですので、高い意識・目標を持って授業に取り組んでください。国公立2次試験では、読解力に加え、高い文章表現力が求められます。1年次から文章をまとめる練習を取り入れていきますので、少しずつ表現方法を身につけていきましょう。また、1年次には全国模試が4回予定されています。自分の実力を客観的に知り、弱い分野をしっかりと分析し、次に生かすことが大切です。模試直しを徹底する中で、自ら課題を見つけて学び方を考える姿勢を身につけていきましょう。

学習の計画（上段：古文、下段：漢文）

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

科目名	古 典	使用教材	教科書 「古典1」(大修館書店) 副教材 「必携 古典文法」(中央図書) 「新訂 国語便覧」(明治書院)
単位数	1年次：2単位必修 スーパー進学コース(通年)	評価方法	小テスト、定期考査 授業への取り組みの様子 提出物、感想文・レポート

学習到達目標

- ◆基本的な学習の躰(挨拶、姿勢、発声、話し方、視線)を定着する。
- ◆古典としての古文と漢文に触れる中で、伝統と文化に対する理解を深め、長い歴史のつながりの中における「現代」に目を向ける。
- ◆現代とは異なる価値観や生活習慣などに触れる中で、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人間・社会・自然などについて考察する態度を養う。
- ◆後期の漢文学習では、中国の思想を学ぶ中で、本校設定科目である『論語』の理解を補強し、自らの生き方在り方について深く考察する態度を養う。

★授業について

前期では古文、後期では漢文学習を進めていきます。「古典」と聞くと、現代文とは文法も異なり、外国語を読んでいるように感じて苦手意識を持つ人がいるかもしれませんが、私たちの祖先が紡いできた文化に触れ、生きるヒントを見つけることができるのが「古典」の魅力です。文法学習に偏らず、古文漢文のリズムをつかむための音読や、現代とは異なる生活習慣などを視覚からも理解できるよう「国語便覧」を活用した学習も行っていきますので、積極的に授業に取り組んでください。文法については、中学校での既習事項も踏まえて一つ一つまとめていきます。ノートの取り方、文法書の使い方などを工夫して効率よく整理していきましょう。また、古典作品を通して感じたこと・考えたことを言葉にする機会も設けていきますので、積極的に自己表現をして、お互いの意見に耳を傾けてほしいと思います。

★自主学習について

◎予習 次の時間に学習する範囲の本文写し、音読をしておきましょう。分からない単語については辞書を引いてまとめておきましょう。授業を充実させる自分なりの工夫を考えてみましょう。

◎復習 授業中にまとめたノートや挑戦した問題の見直しをしっかりと行いましょう。また、小テスト実施後は、間違ったところをそのままにせず、再度解き直しを行いましょう。

★評価について

- 評価の観点 ①各単元の基本的知識の定着を授業・考査を通じて評価します。(知識・理解)
と対象 ②授業に対する意欲、姿勢を観ます。(関心・意欲・態度)
③ノート、小テスト、プリントなどの提出状況とその内容を観ます。(思考・判断)
④感想文やレポートの内容、発表時の態度などを評価します。(書く能力)(話す・聞く能力)

★進路(大学入試センター試験について) 大学入試センター試験では、国語200点満点中、「古典」は100点分を占めています。単語や文法の理解はもちろんですが、文脈に応じた読解ができることが求められます。1年次はその基盤をつくる大切な時期ですので、高い意識・目標を持って授業に取り組んでください。国公立2次試験では、読解力に加え、高い文章表現力が求められます。1年次から文章をまとめる練習を取り入れていきますので、少しずつ表現方法を身につけていきましょう。また、1年次には全国模試が5回予定されています。自分の実力を客観的に知り、弱い分野をしっかりと分析し、次に生かすことが大切です。模試直しを徹底する中で、自ら課題を見つけて学び方を考える姿勢を身につけていきましょう。

学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4	2	オリエンテーション	・「古典」での学習のねらいや授業での決まりについて理解する。	◆学習の終始の決まりの定着 ◆聞き方・話し方の確認
5	3 ~ 2	古文入門	・古文を読むための基本文法を身につける。	●歴史的仮名遣い、品詞の識別 用言の活用形、活用の種類
5	3・4	説話「児の飴食ひたる事」	・説話文学の性格、文学的位置について理解する。 ・基本文法の理解を固める。	●説話から当時の日常の風景を読む ●繰り返し音読し、古文のリズムをつかむ中で品詞を区別する
6	1 ~ 3	随筆「徒然草」 —つれづれなるままに —花は盛りに	・随筆の性格、文学的位置について理解する。 ・作者の論の展開法を把握し、作者独特の感覚を読み取る中で、自分の意見をまとめる。	●「諸行無常」という日本古来の価値観に触れ、日本文化の特性を知る ◆各自の意見を発表・交換し合う中で、自身の考え方を深める ＊仲間の意見に耳を傾け認め合う
6 7	4~ 1	日記「土佐日記」 —羽根	・日記文学の性格、文学史的位置を理解する。 ・歌に込められた作者や周囲の人々の心情を読み取る。	●日記の展開に即して作者の置かれている立場を理解し、歌の内容を通して心情を的確に読み取る。
			・目標を設定し計画的な学習を行う。	◆考査に対する姿勢や勉強の仕方について考える。
前期考査				
8 9	4 ~ 1	文法のまとめ	・既習の文学作品で学習した文法事項の理解を深める。	●助詞、助動詞 ●係り結びの法則 ●音便
9	2	前期学習のまとめ		
10	3 ~ 5	漢文入門	・漢文を読むための基本文法を身につける。	●漢文の構造、返り点、書き下し文 ●漢文独特のリズムをつかむ
11 12	1 ~ 2	故事成語「助長」「知音」 「画竜点睛」 「漱石枕流」 「梁上君子」 「塞翁馬」	・繰り返し音読を行い、訓読に慣れる。 ・故事成語としての意味・用法を理解する。 ・本文の内容を正しく読解する。	●漢文訓読に習熟する。 ●故事成語の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。 ●故事成語の叙述の面白さを味わう。
12 2	3 ~ 4	中国の思想「過猶不及」 「克己復礼」 「不忍人之心」 「小国寡民」	・孔子と門人のやりとりを通して、師弟のあり方や孔子の人柄、考え方を理解する。 ・道家と儒家の違いを理解する。	●儒家の思想 ●道家の思想 ＊『論語』の思想を読み取る中で、現在の自身の姿勢について内省し、生活に生かす。
3	1	後期学習のまとめ	・目標を設定し計画的な学習を行う。	◆考査に対する姿勢や勉強の仕方、学年の締めくくり方について考える。
後期考査				

--	--	--	--	--